

未来の暮らし方を語る

ワークショップ ニュースレター Vol.2

「スマートシティ」をテーマとした講演会と2回目のワークショップを開催しました！

第2回ワークショップに先立ち、「スマートシティを考える 周南のまちづくりに向けて」という題目で、周南市のスマートシティ推進アドバイザーである羽藤英二先生（東京大学大学院）から基調講演をいただきました。講演会では、他地域で取組まれている事例を紹介していただきながら、周南市ならではのスマートシティの取組について、ご助言をいただきました。



【開催概要】

日時 令和3年12月10日（金）
19時～

場所 キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター
カルチャールーム

参加者 22名

【当日のプログラム】

- 1 挨拶・趣旨説明
- 2 基調講演
「スマートシティを考える 周南のまちづくりに向けて」（東京大学大学院 羽藤英二教授）
- 3 各班に分かれての意見交換
- 4 結果に対する講評

また、第2回ワークショップでは、第1回のワークショップで出た「地区内での日々の生活や活動における困りごとや悩み事・やりたいこと」に対して取り組めることや取組のアイデアについて、意見交換を行いました。

ワークショップの様子 ～取組のアイデアについて意見を交換～

今回のワークショップでは、困りごとや悩みごとが解決された3つの将来の姿を想定し、その中から希望する2つを選んで意見交換を行いました。

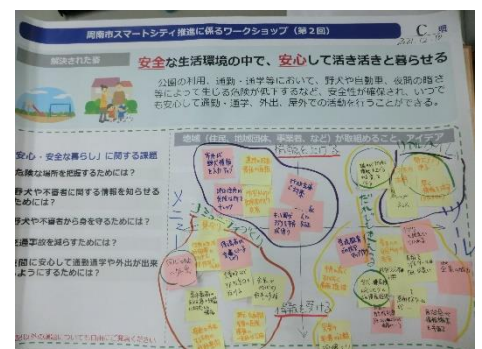
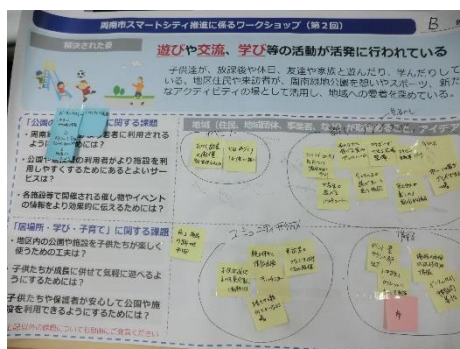
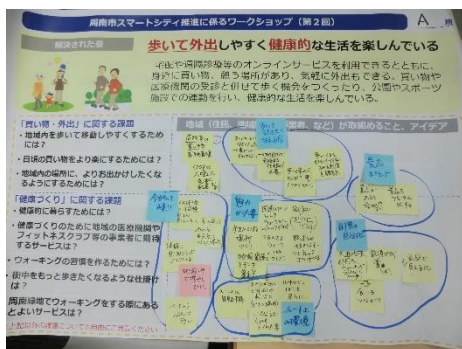
将来の姿

「歩いて外出しやすく健康的な生活を楽しんでいる」

「遊びや交流、学び等の活動が活発に行われている」

「安全な生活環境の中で、安心して生き生きと暮らせる」

今回も参加された方の世代やライフスタイルによって、多種多様な意見が出され、白熱した議論となりました。最後に各班の発表に対して、羽藤先生からご講評をいただきました。



今回もたくさんのアイデアをいただきました！

ワークショップで出た取組のアイデアまとめ

ワークショップで出されたご意見の一部を、要約してご紹介します。

解決された姿 「歩いて外出しやすく、健康的な生活を楽しんでいる」

■今も行っている取組の継続・拡大


- 健康づくりの取組（100歳体操、ラジオ体操、グラウンドゴルフ、ノルディックスポーツなど）を継続する・増やす

■ウォーキングルート/environment整備

- ウォーキングコース沿いに自販機やトイレ（小さな子供用も）、歩きやすい舗装の整備を行い、ウォーキングをサポートする

■歩きたくなるきっかけづくり、地域の魅力づくり、目標の見える化

- 歩いてお店まで行くとポイントを付与する、イベント等には景品を設けるなど歩きたくなる仕掛け、共通の目標設定をつくる
- ウォーキングチェックポイントの設置や歩いて行きたくなる場所づくりを行う
- ピザ窯など、公園の魅力づくりを行う

講評  楽しむということを健康につなげていく、健康になるからまた楽しくなる、という流れの見える化や共有する仕組みがスマートシティで出来るといいと思います。

解決された姿 「遊びや交流、学び等の活動が活発に行われている」

■交流・学びのイベント開催

- コロナで開催できていないイベントや教室を開催する（おかし教室、畑づくりなど）

■新しいプレイスポットづくり


- 子供や親子で遊びたくなる場所をつくる（中高生が遊べるバスケットコート、スケボーや自転車、BMXができる広場など）
- 多様な人が楽しめる総合的施設、雨の日でも遊べる室内プレイルームを整備する

■情報の集約と共有

- 体育館やグラウンドなどの施設の利用・予約の情報集約、ポータルサイト情報の集約を行う
- イベント一覧のチラシを各戸や小中学生に学校から貸与されているタブレットに配布する

■コミュニティづくり

- 子育て中の親同士が繋がる場づくりを行い、子育てに関する情報交換が出来るようにする
- 来訪者が繋がるきっかけをつくる

講評  ポータルサイトはすぐに出来そうなので、あったらいいなと思いました。情報共有のポータルサイトを作ると、遊びや交流、学びが活性化していく基盤になると思います。

解決された姿 「安全な生活環境の中で、安心して生き生きと暮らせる」

■ローカルでリアルタイムな情報の共有


- 道路の路面情報（舗装の危ない箇所）や集中豪雨といったローカルな情報を防災マップ等でリアルタイムに共有する取組が必要

■だれでも使えるツール

- 現在は情報を展開するツールが不十分
- 誰でも情報が簡単に上げられるアプリ作り、電話や防災ラジオを活用して世代や属性に応じたツールでの情報共有が必要
- 自治会への情報端末の手配や地元企業の協力、地区の自主防災組織の体制も必要

■コミュニティづくり

- 住民の生活時間帯に合わせた防災・防犯活動、見守りの実施（同じ時間に外出するようにして街の安全性を高める）
- 企業が地域の行事を支援
- 安全に外出するための行動案内

講評  共有の難しいローカルな情報を、情報が届きにくい人のことを思いやって、情報をどう取り、どう流すべきかを考えることが、安心安全という観点で重要だと思います。

問合せ

周南市企画部 情報企画課 スマートシティ推進室

TEL 0834-22-8236 E-mail ioho@city.shunan.lg.jp